

鉾田市消防団再編検討に係る
分団長アンケート結果

鉾田市消防団再編検討委員会

令和6年3月

目次

アンケート概要

1. 調査の目的	P.1
2. 調査の概要	P.1
3. 回収結果	P.1

アンケート結果

1. 消防団の再編について【5問】	P.2
2. 消防団活動について【10問】	P.6
3. 団員の確保について【2問】	P.12
4. 分団役員の改選など, 決め方などについて【4問】	P.13
5. その他【1問】	P.15

アンケート概要

1. 調査の目的

銚田市消防団の各分団の再編への認識, 人員状況, 活動状況を把握し, 今後の消防団の在り方, 再編の方向性を検討するための基礎データとして使用します。

2. 調査の概要

(1)調査対象:銚田市消防団 分団長(女性分団長を除く)

※女性分団については, アンケートは実施していますが組織構成, 活動内容が通常分団と異なるためアンケート結果からは除外してあります。

(2)調査方法:紙面による記名式アンケート

(3)調査期間:令和6年1月6日から令和6年2月5日

(4)調査項目:消防団の再編に関して【5 問】

消防団活動に関して【10 問】

団員の確保に関して【2 問】

分団役員の改選等について【4 問】

自由記述

3. 回収結果

配布数	回収数	回収率
82(1)件	82(1)件	100%件

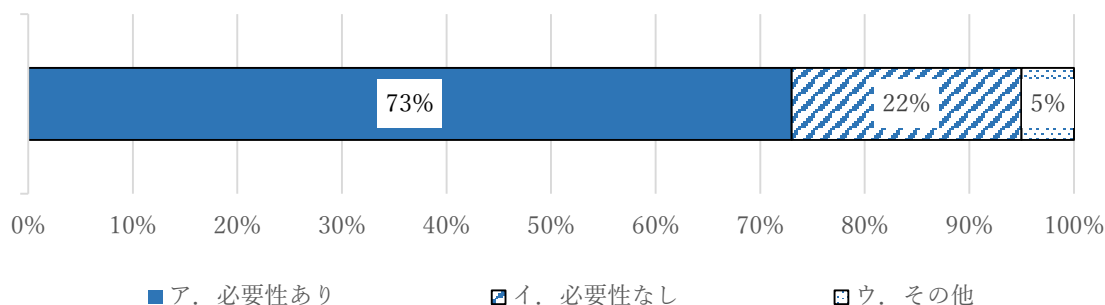
()内は女性分団数

アンケート結果

1. 消防団の再編について

問1. 再編の必要性はありますか？

再編の必要性については、73%(60分団)が「必要性あり」と回答、22%(18分団)が「必要性なし」、5%(4分団)が「その他」(当分団では必要ないが必要な分団はあると思う)となっており、「必要性あり」と合わせると78%(64分団)が再編について必要であると認識している。

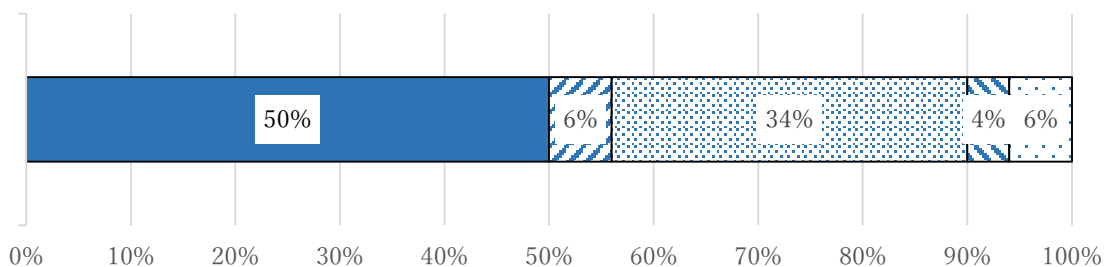


回答	回答数	回答割合
必要性あり	60	73%
必要性なし	18	22%
その他	4	5%

問2. 再編する場合、その方法はどのような方法がよいですか？

再編する場合の方法については、隣接する分団同士が一番多く50%(41分団)、次いで旧小学校区・小学校区が34%(28分団)、現在と同じ支団制が6%(5分団)、中学校区が4%(3分団)となっており、再編の必要性なしと回答の6%(5分団)が無回答となっている。

回 答	回 答 数	回答割合
隣接する分団同士	41	50%
現在と同じ支団制	5	6%
旧小学校区・小学校区	28	34%
中学校区	3	4%
その他	0	0%
無回答	5	6%



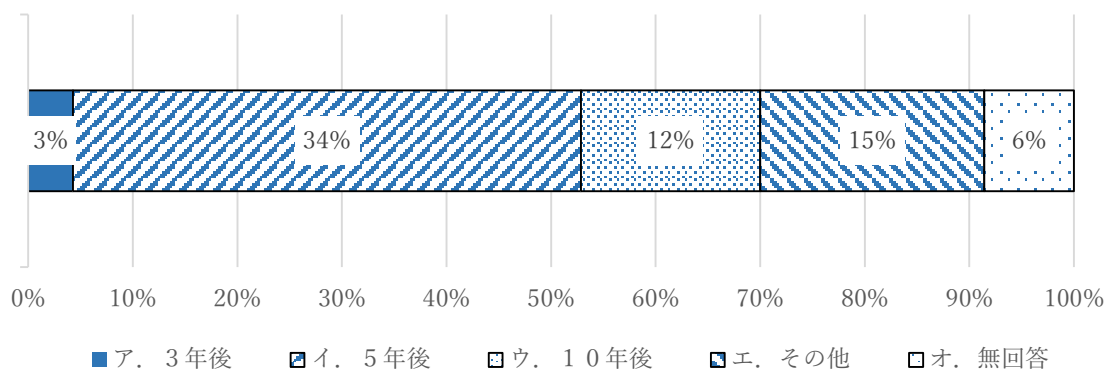
- ア. 隣接する統廃合したい分団同士
- ▣ イ. 現在と同じ支団制
- ▨ ウ. 旧小学校区単位（鉦田地区・大洋地区）・小学校区単位（旭地区）
- ▤ エ. 中学校区単位
- オ. 無回答

問3. 再編する場合、時期は？

再編する場合の時期については、3年後 27 分団(33%)、5 年後 28 分団(34%)と回答しており合わせると 67%が 5 年後までにという結果になっている。また、その他の回答の中には「早急に」という意見もいくつかみられ、現状において活動に支障をきたしており、早い段階での再編を望んでいる。

再編の必要性なしと回答のうち 5 分団(6%)は無回答となっている。

回 答	回 答 数	回答割合
3年後	27	33%
5年後	28	34%
10年後	10	12%
その他	12	15%
無回答	5	6%



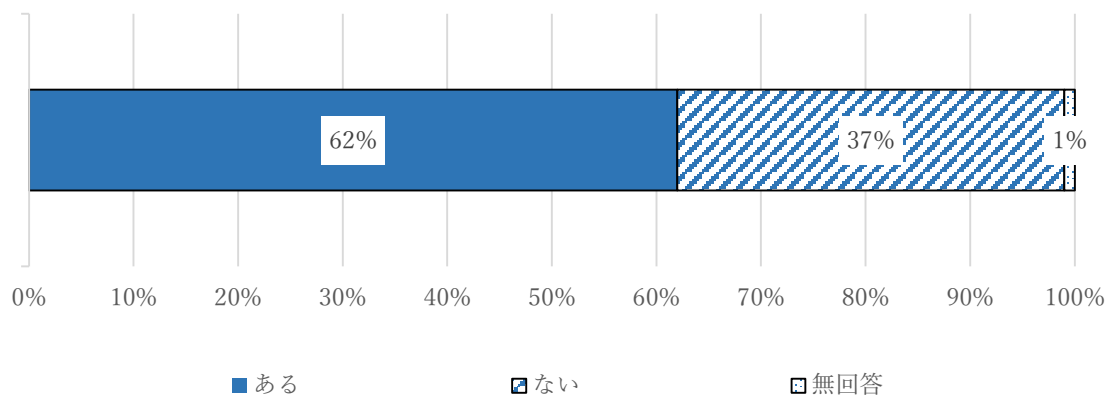
その他のなかでは、「現在はわからない」、「20年後」、「活動ができなくなった時」、「人が減った時」、「早急に」などが挙げられた。

問4. 再編を行うこととなった場合、現時点で懸念事項や問題となる事項などがありますか。

問5. 「ある」と答えた分団長にお聞きします。現時点で考えられる懸念事項や問題となる事項などを記入してください。

再編する場合の懸念点については、「ある」が62%(51分団)、対して「ない」が37%(30分団)となっており、1%(1分団)は無回答となった。

回答	回答数	回答割合
ある	51	62%
ない	30	37%
その他	0	0%
無回答	1	1%



○懸念事項, 問題となる事項(抜粋)

- ・地区との関係性(地区の行事, 地区の理解, 地区からの援助など)
- ・消防施設(消防機庫・詰所・消防車)配置など
- ・各分団の活動内容の違い
- ・出勤範囲が広がること
- ・再編による分団の運営方法(役職, 退職時期など)やモチベーションの低下

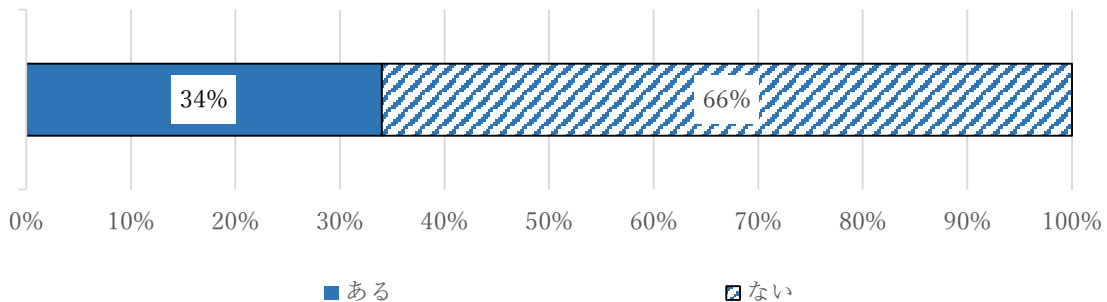
2. 消防団活動について

問 6. 独自の消防団活動(地域行事など)はありますか？

「ある」が 34%(28 分団)に対して「ない」が 66%(54 分団)となった。

活動内容としては、地区の行事や訓練への参加など地域コミュニティと密接にかかわる活動が多く挙げられた。

回 答	回 答 数	回 答 割 合
ある	28	34%
ない	54	66%



○独自活動の内容(抜粋)

- ・地区や子ども会行事への参加
- ・管轄内の福祉施設等での避難訓練への参加
- ・地区の祭事への参加(警備)
- ・自主訓練, 消火器配りなど

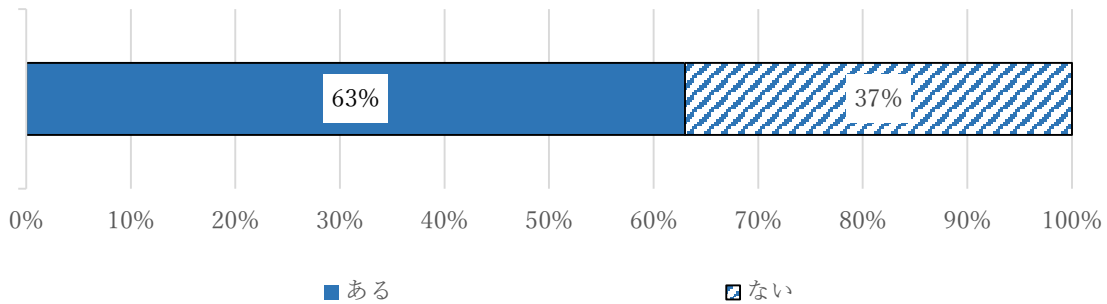
問 7. 消防団活動で困っていることはありますか？

問 8. ある場合は困っている内容を記載してください。

「ある」が 63%(52 分団)に対して、「ない」は 37%(30 分団)となった。

困っている内容としては、主に「新入団員が確保できない」や「行事のたびに参加者を集めるのが難しい」といった、団員の確保に関するものが多く挙げられた。

回 答	回 答 数	回 答 割 合
ある	52	63%
ない	30	37%



○困っている内容(抜粋)

- ・新入団員を確保できない
- ・行事への参加者が集まらない(毎回同じ人が参加し負担が偏ってしまう)
- ・出動範囲が分かりづらい
- ・実践で役立つ訓練が不足している

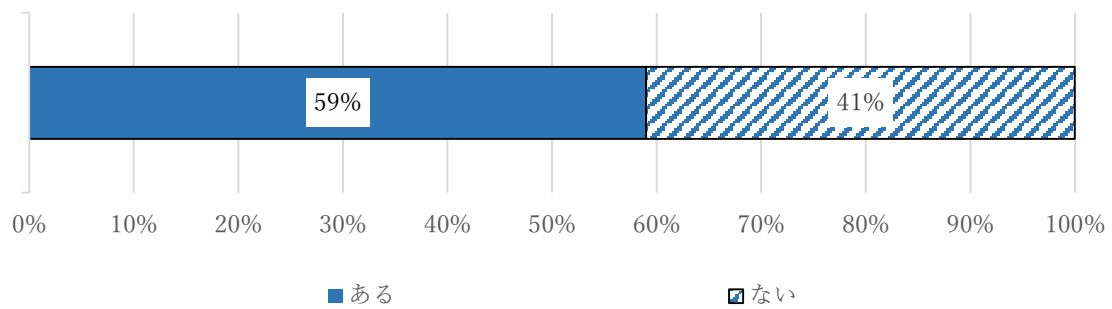
問 9. 消防団活動で負担になっていることはありますか？

問 10. ある場合は困っている内容を記載してください。

「ある」が 59%(48 分団)に対して、「ない」は 41%(34 分団)となった。

困っている内容としては、「操法大会の訓練の負担が大きい」や「行事への参加」や「火災規模に対して出動範囲が広い」など様々な意見が挙げられた。

回 答	回 答 数	回 答 割 合
ある	48	59%
ない	34	41%



○負担になっている内容(抜粋)

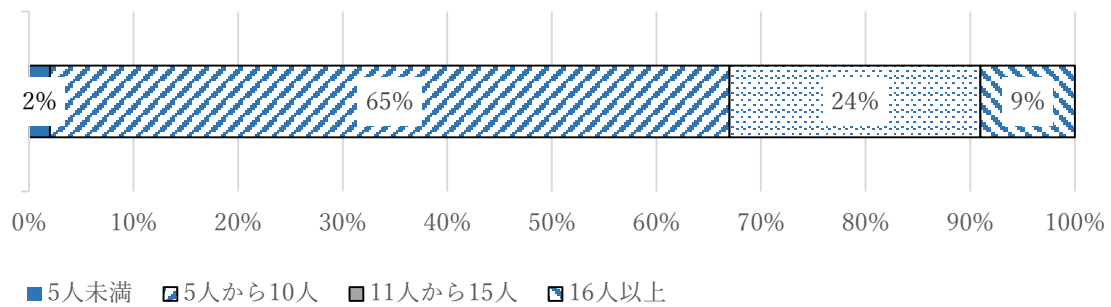
- ・操法大会の訓練
- ・勧誘活動
- ・繁忙期に仕事を抜けなければいけない(行事への参加など)
- ・家族の理解が得られない
- ・火災規模に対して出動範囲が広い

問 11. 現在の活動(火災出動, 災害出動, 訓練, 点検など)を行う上で, 所属する団員の就業形態などを踏まえると, 所属する団員は最低何人が必要と考えますか。

回答では, 最小「3人」から最大「24人」と幅があったが, 5人から10人と回答した分団の合計が65%(53分団)を占めている。

令和5年4月1日現在の実団員数との比較をみると, 実団員数が必要だと考える団員数を下回っている分団は20%(16分団), また実団員数と必要だと考える団員が同数の分団は12%(10分団)と合わせて30%以上の分団が現時点で必要な団員数を確保できていない若しくは, 一人でも団員が減ると活動に支障をきたすという状況となっている。

回 答	回 答 数	回 答 割 合
5人未満	2	2%
5人から10人	53	65%
11人から15人	20	24%
16人以上	7	9%



問 12. 消防団員の親睦を深めるために行っていることなどがあれば記載してください。

○内容

- ・親睦会(飲食), 新年会, 忘年会
- ・レクリエーション(BBQ, ソフトボールなど)
- ・旅行

問 13. 消防団活動を通じてよかったと感じることを記入してください。

○内容

- ・人間関係が広がった
- ・地域貢献ができた
- ・防災意識が向上した

問 14. 消防団活動(消防団を維持していくため)の中で「見直しが必要」と思われる活動は何ですか？(1 つだけ選んでください。)

見直しが必要な活動では、「各種行事」が 28%(23 分団)と一番多く、次いで「訓練」11%(9 分団)、「地域の巡回」10%(8 分団)、「団員の交流」7%(6 分団)の順となっている。

その他については、「操法大会及びその訓練」に関することが多く挙げられていた。

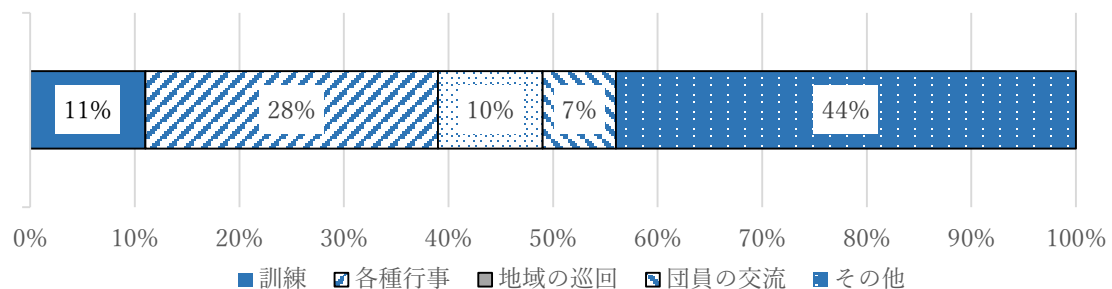
見直しが必要な理由については、「各種行事」においては、必要性を疑問視するものや、参加人数が集まらないことから参加する団員数の見直しなどが挙げられた。

また、「訓練」については、実施時期の見直しや、より実践的な内容の導入などのより有意義な訓練したいという積極的な意見が多くを占めていた。

「操法大会及びその訓練」に関しては、20%(16 分団)が、団員への負担や金銭的な負担が大きいことから否定的な意見が多く見直しを強く求める意見が多かった。

回 答	回 答 数	回 答 割 合
訓練	9	11%
各種行事	23	28%
地域の巡回	8	10%
団員の交流	6	7%
その他	36	44%

※その他のなかには、「特になし」や「どれも最低限必要な活動だと思う」を含む。



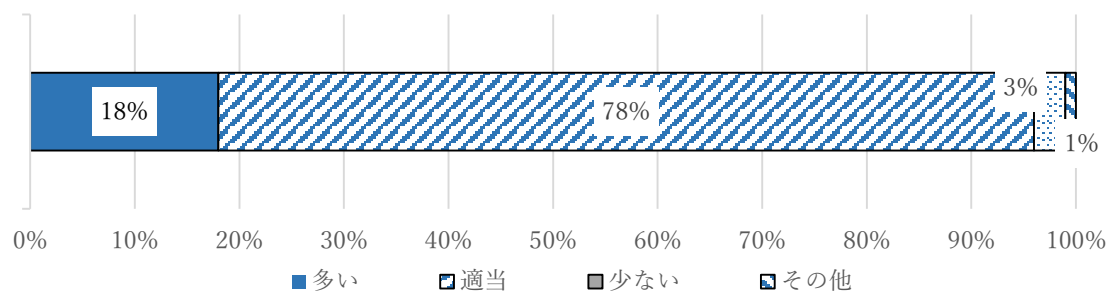
問 15. 消防団活動に頻度についてどのように感じていますか？

(1 つだけ選択してください)

「適当」として答えた分団が 78%(64 分団)と大半を占めており、「多い」が 18%(15 分団)、「少ない」が 3%(2 分団)、「その他」が 1%(1 分団)となった。

消防団活動について、各分団とも負担に感じていることや、見直しを行うべきと思っている一方で、活動頻度については、おおむね適当な頻度であると感じている。

回 答	回 答 数	回 答 割 合
多い	15	18%
適当	64	78%
少ない	2	3%
その他	1	1%



3. 団員の確保について

問 16. 団員の確保についてどのように行っていますか。

多くの分団が、現役の消防団員が直接訪問を行い勧誘を行っており、一部では地区の役員などが勧誘を行っているケースが見られた。

○勧誘方法

- ・分団員が訪問して勧誘
- ・地区の役員の人などが勧誘
- ・OB などに紹介してもらい勧誘
- ・退団する人が勧誘

問 17. 団員の勧誘を行う上で、有効だったと思われる取り組みや苦慮している円などあれば記載してください。

年齢の近い団員が勧誘することで、入団してもらえることが多いが、本人ではなく配偶者や親などの家族に断られ、本人に会えず断られるケースが散見している。

○有効だった方法

- ・年齢の近い団員が勧誘する
- ・年齢の近い団員と一緒に勧誘する
- ・OB や親に協力してもらう

○苦慮している点

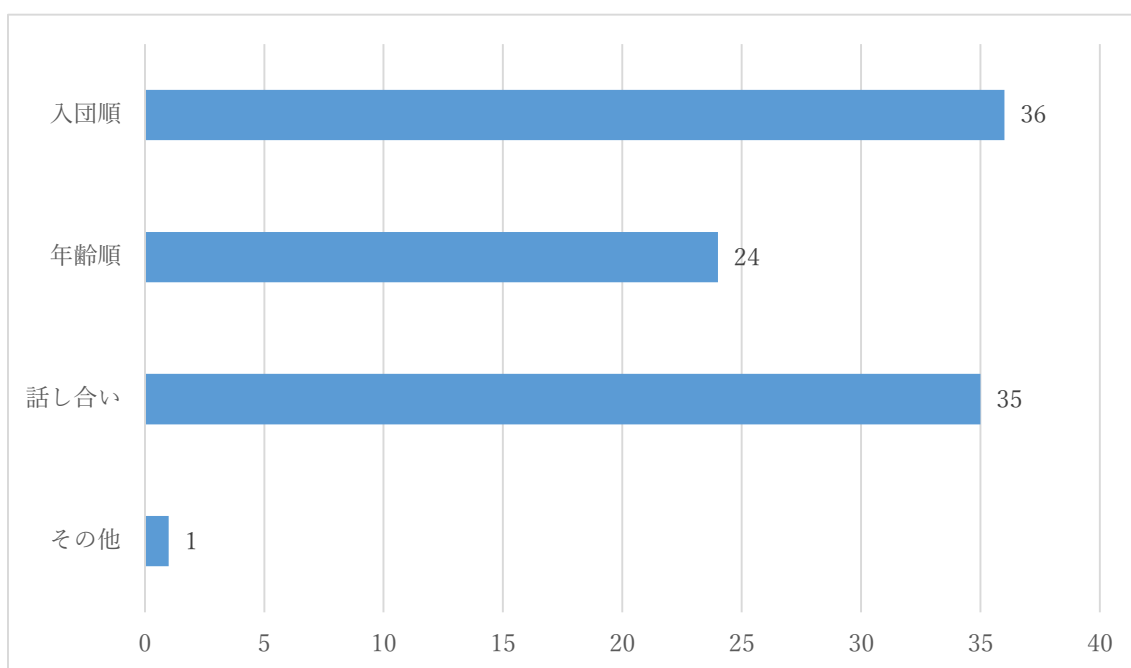
- ・操法大会を理由に断られる
- ・サラリーマンのため仕事を理由に断られる
- ・消防団のイメージが悪く家族に断られる

4. 分団役員の改選など、決め方などについて

問 18. 分団長や副分団長などの決め方に何か決まりはありますか。(複数回答)

一番多かったのは、「年齢順」であり、44%(36分団)次いで、「話し合い」が43%(35分団)、「入団順」が29%(24分団)、「その他」が1%(1分団)という決め方を行っている。

複数回答のため、単純な年齢順や入団順ではなく話し合いをした上で決めていくという決め方を採用している分団も一定数ある。



問 19. 改選を行うにあたり、問題となることや過去に問題になったことはありますか。

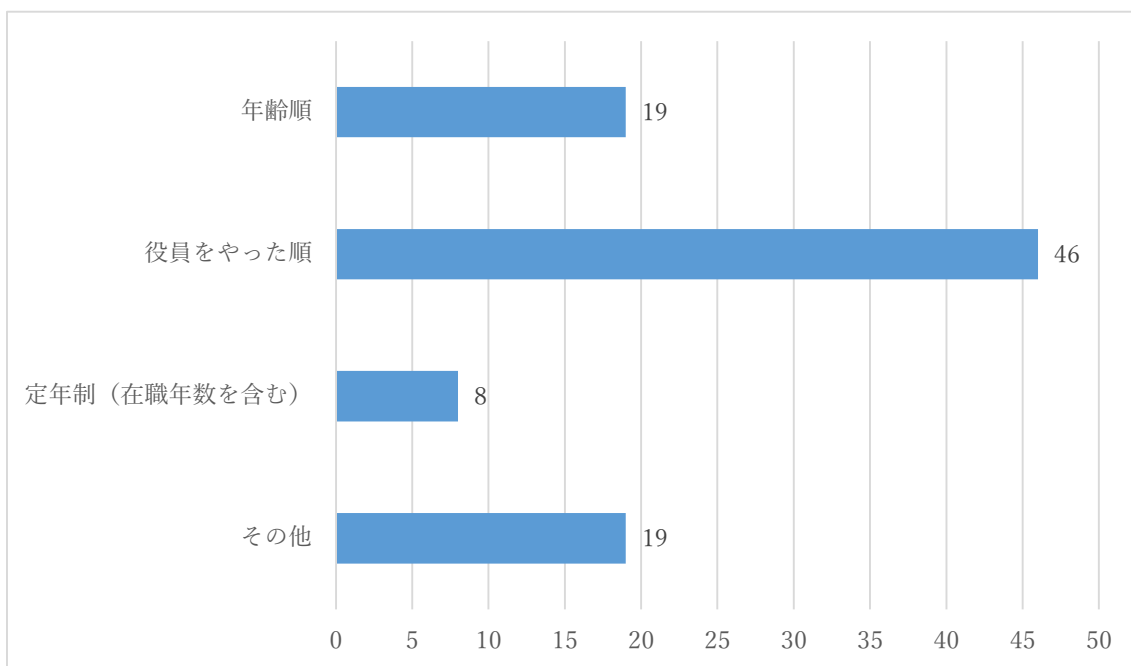
○問題となった内容

- ・年齢順で決めていた際に、団歴の浅い人が分団長になり問題になった
- ・分団長などの役職を引き受けてもらえない場合がある
- ・転勤などがあり役職につけられない場合がある

問 20. 退団をする際の決まり事がありますか？(複数回答)

退団する際の決まり事としては、「役員をやった順」が一番多く 56%(46 分団)で採用しており、次いで「年齢順」23%(19 分団)、「定年制(在職年数を含む)」が 10%(8 分団)、「その他」が 23%(19 分団)となっている。

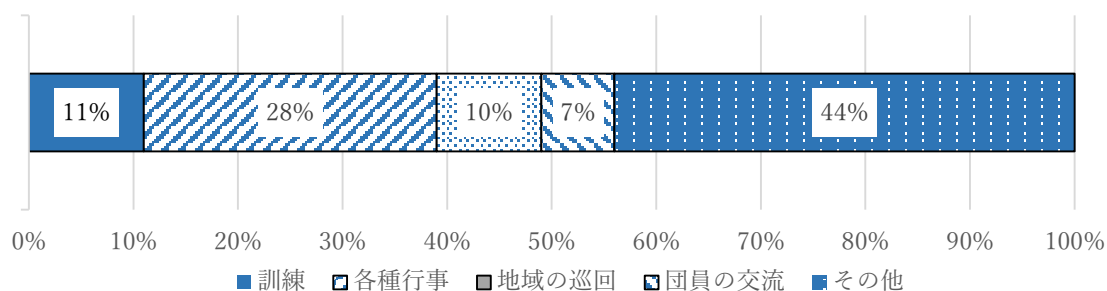
その他では、話し合いや入団順などが挙げられた。



問 21. 分団長が終わった後も団員として残る状態ですか？

半数以上の 55%(45 分団)が「残る」状態であり、「状況次第」が 13%(11 分団)、「残らない」と回答したのは、32%(26 分団)となった。

回 答	回 答 数	回 答 割 合
残る	45	55%
残らない	26	13%
状況次第	11	32%



5. その他

問 22. 消防団活動について感じていることなど, どのようなことでも結構ですのでご記入ください。

○自由記述

- ・とにかく団員の確保が問題
- ・今まで通りやろうとして負担になっていることが多い
- ・操法大会をなくしたい
- ・消防団自体は必要なものなので, 極力団員の負担を減らし新入団員の確保に協力してほしい
- ・自営業の団員の減少や価値観の違いにより行事への参加が難しくなっている
- ・人数が少ないので手当を増額してほしい
- ・各分団の活動方針を統一してほしい
- ・出勤報告などのペーパーレス化を進めてほしい